

中学1年生・高校3年生の保護者の皆様

麻しん・風しん予防接種を忘れずに受けてください！
(時限措置が終了します)

【麻しん風しん予防接種】

麻しん・風しんの対策の中でとりわけ重要なのは、予防接種です。現在、5年間の時限措置として、中学1年生・高校3年生に相当する年齢の方への定期予防接種(※)が実施されています。都内の区市町村が実施する麻しん・風しん定期予防接種の**費用は無料**です。

平成24年度は、時限措置の最終年度となります。平成25年度以降に接種を受ける場合、**自費で負担することとなります**ので、接種機会を逸することのないよう、ご注意ください。

予防接種を行うワクチンはMRワクチン(麻しん風しん混合ワクチン)です。これまでに、麻しん、風しんにかかったかが確実には分からない方、麻しん風しんの予防接種を2回受けていない方は、感染を防止するために接種が必要です。早めに予防接種を受けてください。

予防接種を受けられる医療機関については、住所地の区市町村(予防接種担当部署)にお問い合わせ確認してください。都内の区市町村の予防接種担当部署・連絡先は、別紙のとおりです。

(※ 予防接種法に基づき区市町村が実施する予防接種)

【麻しん】 (はしか)

麻しんは**感染力が非常に強く**、まれに急性脳炎を発症するなど**重症化することもあります**。また、後遺症が残ったり、死亡することもある注意すべき疾患です。集団感染となった場合は、本人のみならず、周囲や学校等にも大きな影響を与えることとなります。

平成19年には、10代及び20代を中心とした年齢層で麻しんが大流行しました。

現在、「麻しんに関する特定感染症予防指針」が定められ、医療機関、行政機関、教育機関等が協力して、徹底した麻しん対策を進めているところです。

【風しん】

一方、今年に入り全国的な風しんの流行が続いており、都内でも過去最高の患者報告数となっています。報告数は成人の男性を中心に多くなっていますが、予防接種をしていないなど、免疫を十分に持っていない比較的若い世代の患者数が多くなっています。

風しんは、妊娠中の女性の感染には特に注意が必要です。妊娠中に感染すると、胎児に先天性の疾患等があらわれるおそれがあります。生徒本人の感染防止はもちろん、周りに妊娠中又は妊娠の可能性のある方がいる場合は、感染を広げないため十分に注意をすることが必要です。

接種終了後は、担任又は養護教諭までご報告ください。

○○○○○○学校

学校長 ○ ○ ○ ○